

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570214304		
法人名	有限会社 つなぎの里		
事業所名	グループホーム つなぎの里 (うさぎユニット)		
所在地	秋田県能代市二ツ井町小繋字麻生道端87-3		
自己評価作成日	平成30年6月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は畑作りや盆踊り、2年に1回行われる家族・地域交流会などできるスペースを設け、季節の花や自然に囲まれた環境豊かな場所である。
また、地域の方との交流を大切にすることを心掛け、日々取り組んでいる。
入居者が過ごしやすく、穏やかに楽しい里と思えるよう、家族や地域の意見を取り入れながら、よりよいホーム作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族会が存在していること自体稀であるのに、年2回も開催されている実態には驚かされる。温かいタオルをいつでも気持ちよく使えるようにと、顔用と清拭用に分けられたタオルウォーマーが各ユニットに2台ずつ設置されている。廊下に溢れるように掲示された写真から、事ある毎に地域へおもむき、あるいはホームへ招いて地域との交流を積極的に推進していることが伺えた。子ども園・ギター・弾き語り・唄や踊りの各ボランティアで楽しむ利用者の笑顔が印象的である。利用者の心身の状況に合わせ、歌ったり、聞かせたりなど、音楽の持つ力を生かし生活の質の向上が図られるよう音楽療法士が毎月訪問してくれている。ユニットの全スタッフが全利用者の担当として対応することの意義を考慮し、数年前から、スタッフのケース担当制をあえて廃止する取り組みに挑戦している。管理者をはじめ、スタッフが臨機応変に対応してくれ、家庭的でとても話しやすいと家族から感謝されているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自由・絆・笑顔という理念を掲げ、日々取り組んでいる。人と人とのつながりを大切にし、穏やかで楽しい里を目指し、職員一同努めている。	4月に基本理念の見直しを全スタッフで実施している。当初からの理念である「自由・絆・笑顔」を3本の方針として再整備している。基本理念と方針はパンフレットはもちろんのこと、ホームの要所に掲げられ、全スタッフが共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加の機会を作ったり、盆踊りなど毎年ホームへ来ていただき、披露していただいている。また、2年に1回、地域交流会を行い、地域の方と日常的に交流できるよう取り組んでいる。	廊下に溢れるように掲示された写真から、事ある毎に地域へおもむき、あるいはホームへ招いて地域との交流を積極的に推進していることが伺えた。子ども園・ギターの弾き語り・唄や踊りのボランティアで楽しむ利用者の笑顔が印象的である。利用者の心身の状況に合わせ、歌ったり、聞かせたりなど、音楽の持つ力を生かしたりハビリテーションを通して、生活の質の向上が図られるよう、音楽療法士が毎月訪問してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域住民から問い合わせがあった際は、その都度対応している。また、地域交流会の際は”つなぎの里だより”を発行し、地域の人々に少しずつであるが、事業所の取り組みなどを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は定期的に行い、ホームの状況報告などを行い、意見などはスタッフミーティング等で報告し、サービスの向上に生かしている。	2か月に一度、第3金曜日を開催日と定め、参加者の都合を調整し、毎回、次回の開催日を案内している。当初の町内会長や民生委員が今も引き続き参加してくれており、利用者や家族、地域住民、市担当者の参加が確認できた。	運営推進会議の出席者と出欠が一目でわかるよう、報告書(議事録)の書式を工夫するよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	”ほっとネットニツ井”という事業に参加し、他事業所の方たちと連絡を取り、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に市担当者が毎回参加しており、ホームの現状を把握してもらったり、感染症対策や熊の出没等の貴重な情報を提供してもらったり等、連携を密にしている。ニツ井町と藤里町の介護と医療と福祉に関わる事業所の集まりである”ほっとネットニツ井”は、市地域包括支援センター等との情報交換や研修会、災害時の協力体制に心強い存在である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルの読み合わせを行ったり、身体拘束をする場合は、家族の同意を得てから行っている。 また、リスク委員会(身体拘束廃止委員会)で毎月、身体拘束を行わないケアを話し合い、職員で取り組むよう努めている。	全マニュアルをこの7月に向け、見直しを実施しており、「身体拘束廃止マニュアル」も7月1日付けで見直されていることが確認できた。マニュアルには「身体拘束ゼロへの手引き」が添付され、事務室のスタッフがいつでも取り出せる位置に整備されている。現在対象者はいないとのこと。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業については現在利用している方はいないが、必要な方には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、家族の方々へは利用するにあたり不安や疑問点を確認し、十分な説明を行い、理解や納得をしていただける様、努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を訴えやすいよう、家族へは年に1回アンケートを配布している。 入居者とは日常会話や行動の中から思いや希望をくみ取るようにしている。	家族会が存在していること自体稀であるのに、年2回も開催されている実態には驚かされる。管理者をはじめ、スタッフが臨機応変に対応してくれ、家庭的でとても話しやすいと家族から感謝されている。前回の評価結果を踏まえて、家族アンケートの内容や項目について、より疑問や意見を引き出せるようその改善に取り組み始めている。年2回実施していたアンケートをあえて年1回にし、簡素に記入できるよう○印等でのチェック式を採用。記述欄は末尾に配置し、意向を確認できた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて各自意見を出し合ったり、その都度職員の意見や提案を管理者から代表へ報告している。	日常業務の中でも、遠慮なく管理者へ意見や提案をしており、働きやすく話しやすい職場環境であることが伺える。	倉庫が狭くなり、日常消耗品等のストック等を事務室に置かざるを得ない状況にある。今後置ける場所を確保する予定とのこと。その取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が労働時間や勤務状況など代表へ報告しており、必要時職場環境や条件の設備など行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市、グループホーム協会などへの研修へ参加し、スキルアップに努めている。 また、参加時には、研修報告をミーティングにて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており、情報交換や研修会に参加することで、サービス向上に努めている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して相談できる関係、雰囲気作りを心掛けている。また、本人が不安な事や困っていることに対して、出来るだけ耳を傾け要望を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話連絡により気軽に相談できる関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士、食事作りや洗濯、掃除など一緒に行っている。 また、同じテーブルを囲い、食事や会話を楽しんでいる。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回ホームより新聞を発行しており、面会や支払などを通して、家族とのコミュニケーションの場を作り、その中で情報を得たり、本人と家族のと関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	床屋やパーマ屋さんなど本人が希望する限り、利用できるように対応している。 病院や外出先で出会った時は、職員が間に入り支援するように努めている。	毎月支払いのために家族が訪問しており、衣替えの時期には衣類を交換したり、仕事の休日に外出へ連れ出したりすること。お盆の外泊事例も確認できた。理容・美容は利用者個々の馴染みのところを今も利用しており、中にはホームまで送り届けてくれる事例も確認できた。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で共同作業を行っていただき、支え合う関係作りに努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も継続的に関わりを必要としている方に対しては継続的な関わりを支援できるよう、努めている。		
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自身の思いや意向を自ら話しやすい雰囲気作りや日々の会話から、その人らしく生活できるよう努めている。	何気ない日常会話や簡単な話題を大切にし、会話の中から、あるいは仕草や反応を観察することで、本人の意向や思いを汲み取るよう工夫している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報やアセスメント記入などから、これまでの生活の把握に努めている。また、本人の会話からも情報が得られるように努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りなどスタッフ間での情報交換や日々の関わりなどから現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の行動や状況の把握に努め、職員全体の意見と入居者や家族の要望などを取り入れ、反映し、カンファレンス等で検討し、作成している。	ケアマネージャーと管理者が中心になり、毎月のミーティング時に前回のプランを基にスタッフと共にモニタリングを実施している。ユニットの全スタッフが全利用者の担当として対応することの意義を考慮し、数年前から、スタッフのケース担当制をあえて廃止する取り組みに挑戦している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアの実践を個別記録に記入し、継続または改善が必要な際は、ミーティングで話し合い、介護計画に取り入れている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア、地域の保育園などに行事の際に来ていただき、一緒に楽しめるような支援を心掛けている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、本人の病状や状態について、職員や家族が把握できるよう、連絡や話し合いを行い、かかりつけ医や近隣医との連絡を密にし、適切な受診を受けられるよう、支援している。	本人や家族の希望を最優先し、入居前のかかりつけ医を入居後も利用できるよう支援している。通院付き添いは基本的にホームで対応している。協力医療機関の往診は心強い。薬剤師とは顔の見える関係にあり、今までも多くのアドバイスや一包化等に協力してくれていることが確認できた。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を観察し、変化がある際は、すぐに相談や報告し、全ての職員が同じ対応ができるように努めている。また、適切な受診を受けられるように努めている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は現状を記録した用紙の提出や看護師要約の提供を受けている。 また、入院中の途中経過など電話連絡も行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の変化に備え、家族やかかりつけ医との話し合いを密に取れるよう、取り組んでいる。 また、本人に合ったケアが行えるようにカンファレンス等で話し合いを行っている。	「ターミナルケアマニュアル」及び「入居者の重度化した場合における対応に係る指針」に基づき、昨年度は1名を看取っている。できれば最後までホームのお世話になりたいという家族が殆どとのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを参考にし、ミーティングや申し送りの際、話し合い、実践を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を消防立ち合いにて行っている。 また、地域の方への協力も依頼している。	年2回の避難訓練を実施していることを確認できた。消防署立ち合いの総合避難訓練には、地元の消防団も参加しており、心強い。ショートステイ事業所が隣接しており、互いに応援しあう体制が確立している。	
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を損ねるような対応は行っていない。入居者と同じ目線で接することを心掛けている。	各テーブルにスタッフが入り、共に食事をし、ゆっくりと食べる方に合わせ、会話を楽しみながら食べられるよう話題を提供している様子を確認できた。トイレ誘導の際には、他利用者に気づかれないよう、廊下で耳打ちする等の配慮を実施している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合わせ、声掛けや傾聴し、自己決定ができるよう、支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	観たいテレビ番組や塗り絵、読書など入居者の希望と聞きながら、その方のペースに合わせて、その人らしく過ごせるよう、支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用している。 毎朝の洗面やブラッシングを行ったり、季節や好みに合わせた衣服にするよう努めている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜カットや盛り付け、食器拭きなど出来る方とスタッフが一緒に行っている。 調理作業や盛り付けをしながら、その日のメニューなど食に関する会話を行っている。	梅漬けの下ごしらえで、梅から種を取り出す作業を慣れた手つきでみんなで行っており、明日はシソもみを行うとのこと。ホーム手作りの梅干しを通年賞味できるとは羨ましい。季節や行事に合わせた多様なメニューを提供していることを多くの写真が物語っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に合わせた食事形態や好みの飲み物を提供し、摂取確保している。 また、摂取量を記録し、状況の把握に努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助にて口腔ケアを行っている。 歯ブラシや舌ブラシ、うがい薬によるうがいや義歯洗浄剤など使用し、清潔保持に努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄時間や回数を記録し、一人一人の排泄パターンを把握し、様子を見ながら声掛けやトイレ誘導を行っている。	タオルウオーマーが各ユニットに設置されており、排泄の自立に向け、温かいタオルをいつでも気持ちよく使えるよう配慮されている。排泄が自立している方以外には排泄チェック表を活用し、こまめに傾向を探り、個別の対応につなげている。夜間ポータブルトイレを使用している方が数名いるが、日中はトイレでの排泄を誘導することで、その人なりの排泄の自立を促している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の回数や状況をチェックし、食物繊維の摂取や処方された下剤の調整をして、予防に取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前のバイタル測定を行ったり、その日の気分や健康状態に合わせて、入浴できるよう支援している。	火曜と土曜以外の13:30~16:00に入浴を実施している。入浴の順番は定めずに、その日の気分や希望を優先させている。入浴剤を数種類用意し、香りを楽しめるよう配慮している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時々状況に応じた休息や安眠の支援を行っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に主治医や薬剤師を通じて理解に努めている。 症状の変化などについては、看護師に相談している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりできる事を役割として行っている。当日での誕生日会や季節ごとの行事により、気分転換できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画により、季節ごとと行事を立て、活動している。可能な方は、家族と外出も協力を得ながら、行っている。	週2回のホームの買い出しに利用者も同行し、一緒に食材を選んでくれるとのこと。家族とのドライブや盆帰省、外泊が楽しみとのこと。自然に恵まれ四季折々の風景が楽しめる環境にあり、天気と相談してはいつもの散歩コースを散策している。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、少額の所持金を自由に使えるようにしている。それ以外はホームで管理し、希望時に職員が代行するなど支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りはスタッフを通じて行えるようにしている。 また、毎年、家族あてに年賀状の作成を行い、送っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けやカレンダーで四季を演出している。また、行事や日常の様子を写真にて見れるようにしている。 各居室や廊下などに温湿度計を設置し、環境を整えている。	廊下に溢れんばかりの数々の写真の中から自分が写っている写真を見つけて、紹介してくれた。気になる匂い等は全く感じられない。掃除も行き届き、温度や湿度の管理に配慮している。月に2回のレクリエーションの日に利用者と共に作成した作品が共用空間に彩りを添えていた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士、おしゃべりできるよう、また思い思いの時間を過ごせるように、環境設定している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの物を置いたり、飾ったり、面会時は面会者と自室にて気兼ねなく過ごせるよう、配慮している。	タンスとベッド、エアコンが備え付けで、家庭からの持ち込みは一切制限をしておらず、テレビや位牌を持ち込んでいる様子が確認できた。冬場の乾燥対策として、居室に加湿器や濡れたバスタオルを利用している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人のできる事やわかることに合わせ、それぞれ環境を工夫したり、手すりの設置などにより、事故のないよう支援している。		